

司会（山本ひろ子）

ただいまよりシンポジウムを開催します。本日午前には「物部^{ものべ}フィールドワークの12年」と題して新旧織り交ぜての学生、元教員、そして何よりも物部から駆けつけてくださった方々と、この12年を振り返って、その意味をさらに明日につなげていこうという座談会を持ちました。

そのフォーラムと連動させながら、この第2部「いざなぎ流研究の新時代へ」というシンポジウムを企画されております。小松和彦先生、斎藤英喜先生、梅野光興先生、そして司会は私、山本が担当いたします。

パネラーの先生方のお仕事に関してはパンフレットやチラシ、さらに『資料集・いざなぎ流研究の現在と物部フィールドワークの12年』の中に、詳細に紹介してあるので、そちらをごらんください。

さてシンポジウムの第一部は基調講演です。いざなぎ流についてかなりご存知の方もいらっしゃいますし、いっぽういざなぎ流の名を初めて目にしたという方も多いかと思しますので、まず基調講演の最初には、小松和彦さんからいざなぎ流とはなにかということ、要点を概括してお話させていただきます。続けて、私が今日のパネラーの方々の仕事を中心に研究史をざっと振り返ったあとパネルディスカッションに入っていくという流れです。それでは小松先生お願いいたします。



『資料集・いざなぎ流研究の現在と物部フィールドワークの12年』和光大学山本ひろ子研究室、2012年11月24日発行